

エジプト

2021年11月30日
海外調査部・カイロ事務所

エジプトでは新型コロナウイルス感染症の拡大下においても、政府が厳しいロックダウンなどの措置を採らず、経済活動を継続したこともあり、拡大当初は失業率が悪化や外貨準備高が減少したものの、その後の経済は改善に向かった。2019/2020年度（2019年7月～2020年6月）の実質GDP成長率は3.6%となった。貿易では、輸出入ともに減少したが、特に輸入の減少が大きかったため、貿易赤字は縮小した。対日貿易は、日本からの自動車など輸送機器の輸出が増加し、エジプトからの輸入は、揮発油などが前年から大きく増加した。

■新型コロナ禍においても経済成長

エジプト中央銀行によると、エジプトの2019/2020年度（2019年7月～2020年6月）の実質GDP成長率は3.6%とプラス成長を維持した。2020/2021年度も、第1四半期（2020年7～9月）は0.7%と低調であったが、第2四半期（2020年10～12月）は2.0%、第3四半期（2021年1～3月）は2.9%と右肩上がりの回復を続けている。中央銀行は、第4四半期（2021年4～6月）は速報値で7.7%と高成長を見込んでいる。

2019/2020年度における産業別の実質GDP成長率は、石油精製が17.3%増、在宅勤務や家庭内での娯楽需要の拡大で通信分野が15.2%増と大きく成長した。2020年3～6月まで新型コロナ対策として国際線を原則停止した影響もあり、観光分野は17.0%減少した。

失業率は新型コロナの感染拡大当初の2020/2021年度第2四半期（2020年10～12月）に一時的に9.6%まで上昇したが、その後は7%台に改善し、2020/2021年度は7.2%となっている。外貨準備高も一時は減少したが、国際通貨基金（IMF）からの緊急融資、海外労働者からの送金の増加、安定的なスエズ運河の通行料収入により、輸入などに必要な外貨準備高は確保できている（2020/2021年度は340億9,500万ドル）。一方、IMFや各国からの融資額は拡大し、対外債務残高は増加傾向にある。

■石油製品・天然ガスの輸出が減少、原油は輸入減で貿易赤字は縮小

2020年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比9.6%減の276億ドル、輸入は8.9%減の696億ドルとなり、輸出入ともに減少した。貿易収支は420億ドルの貿易赤字となったが、赤字額は前年から縮小した。輸出品目では、既製服が14.3%減となったが最大シェアを維持し、肥料が4.7%増でシェア2位となった。前年1位の石油製品（ガス含む）、前年2位の原油は油価の下落や新型コロナ感染拡大による国際的な需要減などで輸出が大幅に減少した。生鮮果実や各種調整食料品は、サウジアラビアなど中東諸国やロシアへの輸出が増加した。

輸入では、海外から調達するようになった原油が前年比24.0%増となった。石油製品では、天然ガ

スの輸入が国内生産開始や国内需要減により54.0%減少した。一方で、小麦、トウモロコシ類、大豆類などの穀物類の輸入が増加している。また、薬剤・医薬品の輸入が10.5%増加した。自動車は、エジプト・ポンド高や利下げなどもあり、近年の輸入減少傾向から回復し、10.8%伸びた。

輸出先は、アラブ首長国連邦(UAE)、サウジアラビア、トルコ、米国、イタリアの順だった。

UAE向けは、宝石・貴金属類と繊維製品が増え、サウジアラビア向けは調整食料品などが増えた。輸入は中国、米国、ドイツ、サウジアラビア、イタリアの順だった。中国からは主に機械・機械部品を輸入しており、自動車・自動車部品が40.4%増だった。中国以外では、FTAがあり、地理的距離も近い欧州や中東諸国との貿易が多い。

表1 エジプトの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2019年		2020年			2019年		2020年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
既製服	1,695	1,452	5.3	△ 14.3	原油	2,877	3,568	5.1	24.0
肥料	1,361	1,425	5.2	4.7	小麦	2,976	3,143	4.5	5.6
原油	1,917	1,192	4.3	△ 37.8	石油製品(ガス含む)	6,356	2,894	4.2	△ 54.5
石油製品(ガス含む)	3,163	1,121	4.1	△ 64.6	鉄鋼一次製品	3,476	2,889	4.1	△ 16.9
プラスチック一次製品	1,121	944	3.4	△ 15.8	薬剤・医薬品	2,535	2,800	4.0	10.5
生鮮果実	512	904	3.3	76.6	自動車	2,493	2,763	4.0	10.8
各種調整食料品	716	773	2.8	8.0	プラスチック一次製品	2,671	2,362	3.4	△ 11.6
生鮮オレンジ	438	342	1.2	△ 21.9	無機・有機化合物	2,581	2,347	3.4	△ 9.1
絨毯等	309	338	1.2	9.4	トウモロコシ類	1,856	1,995	2.9	7.5
薬剤・医薬品類	270	276	1.0	2.2	大豆類	1,650	1,935	2.8	17.3
総額(その他含む)	30,505	27,579	100.0	△ 9.6	総額(その他含む)	76,390	69,624	100.0	△ 8.9

[出所] エジプト中央動員統計局(CAPMAS)

■日本の揮発油輸入が大幅に増加

2020年の日本の対エジプト貿易は、輸出が前年比6.5%増の9億7,011万ドル、輸入が2.2倍の3億1,102万ドルだった。日本の貿易黒字となったが、黒字額は縮小した。日本の対エジプト貿易は構成比の大きい輸送用機器輸出と鉱物性燃料輸入の動向に大きく左右される。輸出の構成比36.7%を占める輸送用機器では、バス・トラックが6.7%増加した。新型コロナウイルス禍においても政府は建設プロジェクトを進めており、製造業も稼働しているため、原動機、ポンプ・遠心分離機、建設用・鉱山用機械、鉄鋼などは増加した。特に11.5%を占める原動機が74.5%増で輸出全体を押し上げた。

輸入は、鉱物燃料のうち揮発油が構成比68.6%と輸入額の大半を占めた。揮発油の輸入は前年比5.7倍となり、輸入大幅増加の要因となった。一方、構成比9.2%を占める液化天然ガスは10.7%の減少となった。その他、これまで輸入が少なかった魚介類が8.1倍と大幅に増加した。

表2 日本の対エジプト主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2019年		2020年			2019年		2020年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器	352,690	355,967	36.7	0.9	鉱物性燃料	69,098	243,002	78.1	251.7
自動車	301,508	307,996	31.7	2.2	石油製品	37,219	214,522	69.0	476.4
乗用車	65,201	65,464	6.7	0.4	揮発油	37,203	213,345	68.6	473.5
バス・トラック	210,981	225,045	23.2	6.7	液化天然ガス	31,879	28,480	9.2	△ 10.7
自動車の部分品	49,297	46,426	4.8	△ 5.8	食料品	24,359	25,562	8.2	4.9
一般機械	211,972	274,999	28.3	29.7	野菜	7,010	4,657	1.5	△ 33.6
原動機	63,710	111,181	11.5	74.5	果実	12,638	12,418	4.0	△ 1.7
ポンプ・遠心分離機	22,349	23,688	2.4	6.0	魚介類	383	3,085	1.0	705.5
建設用・鉱山用機械	42,981	64,032	6.6	49.0	電気機器	13,201	4,884	1.6	△ 63.0
原料別製品	106,663	129,613	13.4	21.5	その他	12,720	15,757	5.1	23.9
鉄鋼	42,274	72,654	7.5	71.9	衣類・同付属品	7,987	5,841	1.9	△ 26.9
ゴム製品	52,084	42,859	4.4	△ 17.7	原料別製品	11,976	8,635	2.8	△ 27.9
化学製品	83,007	51,034	5.3	△ 38.5	織物用糸・繊維製品	10,908	7,960	2.6	△ 27.0
プラスチック	51,940	18,220	1.9	△ 64.9	原料品	5,136	9,374	3.0	82.5
電気機器	77,166	83,398	8.6	8.1	化学製品	2,954	3,575	1.1	21.0
食料品	26,968	23,723	2.4	△ 12.0					
合計(その他含む)	910,604	970,110	100.0	6.5	合計(その他含む)	139,744	311,024	100.0	122.6

[出所] 財務省「貿易統計」(通関ベース)を基に作成

■ 対内直接投資は減少、日本からも減少

エジプト中央銀行によると、2020年の対内直接投資額は新型コロナの影響もあり、前年比35.1%減となったが、約59億ドルで前年同様アフリカでは最大だった。投資元の地域別構成比では、EUが39.3%、アラブ諸国が25.2%と上位を占めた。国別では、地中海沖の天然ガス関連事業に投資するイタリアが17.9%で最大であったが、前年比56.9%の減少となった。シェア2位で13.7%の英国も43.5%減となり、直接投資減少の一因となった。日本からの投資は、90.5%減となった。エジプト政府は外資を呼び込むため、輸出品製造や雇用を創出する企業への投資優遇策を打ち出しているが、日系企業からはビジネス環境の課題が多いなどの声も聞かれる。なお、対外直接投資は7.6%減の約79億ドルであった。

対内直接投資の具体的な案件としては、コカ・コーラ、サムスンなど既に工場を持つ企業や、地中海で天然ガス生産を行うイタリアの石油・ガス企業エニ（ENI）などが追加投資した。日本企業では、自動車部品製造の住友電装も追加投資を行い、カイロ郊外に新たな工場を建設した他、衛生用品を扱うサラヤもスエズ運河経済特区に工場を建設している。また、日系のファンド運営・コンサルティング会社 Asia Africa Investment & Consulting（AAIC）が、2020年にヘルスケア・スタートアップに新たに出資した。2021年に入ってもケップルアフリカベンチャーズなどの日系企業がエジプトのスタートアップに出資する動きがある。

主要経済指標

	2018年	2019年	2020年
①人口：10,147万人（2021年1月1日）			
②面積：100万1450km ²			
③1人当たりGDP：3,587米ドル（2020年）			
④実質GDP成長率（%）	5.6	3.6	1.3
⑤消費者物価上昇率（%）	14.4	9.2	5.0
⑥失業率（%）	8.9	8.0	7.2
⑦貿易収支（100万米ドル）	△38,034	△36,465	△19,203
⑧経常収支（100万米ドル）	△10,894	△11,167	△7,634
⑨外貨準備高（100万米ドル）	38,609	40,685	34,095
⑩対外債務残高（グロス）（100万米ドル）	108,699	123,491	129,196
⑪為替レート（1米ドルにつき、エジプト・ポンド、期中平均）	17.77	16.77	15.76

〔注〕④⑦⑧⑩：エジプト年度（7月～翌年6月）、2020年は上半期（2020年7～12月）の数値
 〔出所〕①⑤⑥：中央動員統計局（CAPMAS）、②：国家情報サービス（SIS）、③⑨⑪：IMF、④⑦⑧⑩：エジプト中央銀行（CBE）

（お問い合わせ先）

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp